

おがわ

小川村ふるさと通信

No. 219
(2019年夏号)



睡蓮の語源は、朝に花を開かせて、夕方には閉じることから（睡る蓮）より由来しています。

(写真 松本博充)

- 小川に生きる
- 図書室だより
- ここに生まれた
- 分館紹介 - 古馬川分館 -
- サークル紹介 - 絵手紙教室 -
- 小川村文化協会ステージ発表会
- 2019年社会教育・公民館関係役員





酒井 忠久さん (中牧城之峰)

「私の経歴」



私は平成22年12月より小川村で生活することになりました。若い頃、勤めていた製菓会社で先輩たちに誘われ夏には北アルプスの槍ヶ岳、常念岳。大天井岳等に登っていました。山頂から見ると雄大な山々を見て大変感激したことを今でも思い出します。

その後転職し、各都道府県に支部がある東京の団体職員として三十余年勤務し、平成21年2月末に定年退職しました。私が漠然と北信濃で生活しようと考えたのは、祖父が松代真田藩々士の家系に生まれたことにあつたのかもしれない。明治の変革の波を受けた多くの藩士たちは生活に戸惑ったようでした。祖父は養子に出て酒井を名乗ることになり祖母を娶りました。その後、父が生

まれ、青年期に東京へ出て家庭を持ちました。私は5人姉弟の末として育ちましたが、上の4人は戦時中を松代に疎開し育ちましたが、私は終戦の翌年、母親の実家(福島県須賀川市)で生まれて間もなく、すでに東京に戻っていた家族と合流しました。家の中での会話は松代言葉で育ち、(小川と共通する言葉が多いです。)自分も北信濃との縁があつたと思います。小学生時代は毎年夏休みになると、大叔母が嫁した豊野の寺で夏休みを目いっぱい満喫し、東京の夏を知りませんでした。

「小川との出会い」

退職後は、家の菩提寺が松代にあることもあり墓守も兼ねて、北アルプスの山々が見えるところに住みたいと思っていました。そこで小さなログハウス風な家に憧れがあつたことから、長野市のメーカーへ行き、そのメーカーのモデルを建てるので土地を紹介して欲しい旨頼みました。大岡や信更等の土地を何カ所か見ましたが、な

なかなか自分が納得できる所がありませんでした。そんな時、営業マンから丁度小川村で分譲している土地があるとの連絡があり見に行き、紹介された土地は、チョット歩けば北アルプスが程よいバランスで眺めることが出来て感激しました。加えて決め手になったのは標高の高い、この村に光通信ケーブルが整備されていたことでした。即決で土地を購入、家を建て移住しました。

小川に来て、まず驚いたのは年配の男性の多くが帽子を被っていること、墓地が各家の土地に建てられていることでした。東京では墓とは寺院の墓地にあるものと思っていました。そして、この村の人々は近所の方々のみならず、皆さんとてもフレンドリーで気軽に話しかけてくれました。

「地域に関わろうと思」

しばらくして、日本記の方からゲートボールに誘われ仲間にしていただきました。見知らぬ地に住んだからにはまず、先輩方とお付き合ひし知り合ひになることで、この地域における習わしや生活の知恵を教えてくださいればと思ったからです。その後、組の会計や組長のお役

をいただき、よく分からないまま務めてきました。暫くして小川村ゲートボール連盟の開催する大会に参加するようになり、平成29年には連盟の会計を担当させていただきました。翌年10月に当時会長をされていた方が急死され、気が付いたら執行部は私一人になっていました。後任を受けていただける人も無く、秋季大会の準備が迫っていました。この俣では連盟の存続さえ危惧されると思い、年度内だけでも繋げたいとの思いで、何人かの方々に応援をお願いし、暗中模索状態でしたが何とか大会開催に漕ぎつけることが出来ました。その後、忘年会・村長杯冬季大会を何とか実施することが出来ました。難航したものの、新年度を迎えて自発的な立候補者を得て連盟の体制を再構築することが出来ました。小川村民になつてはや九年の時を経るなか、この地は山の景色は勿論、四季の移ろいが良く分かること、人々の人情の温かさ等を感じることが出来ました。これまで微力ながらお役に立ったことがあるとすれば、小川に来てよかつたと思えます。

「小川村 大好きです!!」

6月9日 『かみしばいと ペントミノであそぼう!』

今回のかみしばいは、しかけつきのお話「カメタはいいことかんがえた」と「ピカランプ博士のニヨキニヨキスプレー」の2話を紹介しました。物語にあわせて、しかけを動かすところが大変緊張しましたが、場面が変わるごとにみんな大喜びでした。

かみしばいの後は、「ペントミノ」というパズルで遊びました。ダンボールを使って、1人60個のパーツをいろいろな形にして、シールを貼ったり



6月9日に図書イベント「かみしばい&ペントミノであそぼう!」を開催し、15名の子ども達に参加してくれました。

みんな楽しく遊んだ後は、ポップコーンを作って食べました。ポップコーンの種を入れてしばらくすると『ポーンポーン』という音と香ばしいにおいがしてき

ました。のり塩味やコンソメ味といろいろな味を楽しみました。短い時間でしたが、楽しいイベントとなりました。



図書室だより

小さな木の実

第100号
図書委員会

【予告】
小学生限定!!

夏の図書室まつり

昨年も大好評でした図書まつりを今年も開催します。

去年とはプログラムを変え、調理をメインに1日を過ごしたいと思います。どんな1日になるのかな?

お友達同士で参加してください。

※申込みは先着順です。



2月20日 図書委員研修旅行

2月20日、視察研修として東御市と小諸市の図書館を見学して来ました。

ソファやテラス席が並ぶ明るい館内には豊富な種類の本が並び、お茶を飲みながら雑誌を眺めたり、学習

室で勉強したりと一日中ゆったりと過ごせそうでした。幼児室はアーチ型の天井で声が響き、読み聞かせの世界がぐっと広がるようなワクワクする空間でした。

また、地元の方による歌や楽器の演奏会、図書館まで来られない方への移動図書館、電子化による簡単な貸出や検索等、利便性も良く図書館が地域の中心にあるように感じました。



良い所はどんどん参考にし、小川村図書館も皆さんにくつろいでいただける空間にしていけたらと思います。



ブックスタート ～生後6ヶ月の赤ちゃんへ本のプレゼント～

『子どもに読んで聞かせたい本は？』 平成30年9月から10月生まれの赤ちゃん

『パンダのモリこいずみ』



あかい
阿加井 いろはちゃん

『はらぺこあむし エリック・カール』



おびなた
大日方 希優ちゃん

『くまのしんじろのシリーズ』



いとう
伊藤 せこくん

『きんぎょがにげた』



なまら
鎌倉 遼大ちゃん

新しい命



今回は、大久保団地にお住いの太田さん夫婦のもとに、新しい命が生まれましたのでご紹介させていただきます。

太田さん夫妻は、奥様の冨加さんがもとと白馬によ



新しい命と共に

太田 尊生
冨加 さん(大久保団地)

く来ていたこともあり、小川村への移住を考えておりました。そして夫の尊生さんが協力隊として小川村へ派遣されるといいう形で、夫妻と当時1歳の小晴ちゃんの三人で小川村での生活が始まりました。

小川での生活も三年が過ぎた今年の3月7日、太田家に新たな命が誕生しました。体重3600gの元気な男の子で大きくのびのびと育ってほしいという思いから「宇泰朗^{うたろう}」くんと名づけられました。

妊娠中の思い出深かったエピソードをお伺いすると、まだ妊娠したことが分かっていない時に当時3歳の長女の小晴ちゃんと遊んでいると、小晴ちゃんが急に「おなかの中に赤ちゃんいるよ!」と言い、気になって検査してみたところ本当に妊娠していたとのこと。子どもはそういう感性が鋭いと言いますが本当に驚きます。

出産は予定よりも十日遅れでの出産になりました。小晴ちゃんの出産が予定日をこえる大変な状況での出産だったことがあり、今回は外を歩いたり、畑をやったり、母子ともに元気な状態で出産にのぞめるように心がけたそうです。実際に産後の体の調子もよく子供も元気にすくすく育っているとのこと。

宇泰朗くんは誰にでもよく笑ってとても人懐っこい子です。記者の私は初対面の赤ちゃんには必ず泣かれてしまう悲しい男なのですが、そんな私にも笑いかけてくれるとてもかわいい男の子です。近所の方々にも可愛がってもらっているようで、子育てをするうえで非常に助かっているとのことでした。

「小川村は子育てするにはとてもいい環境だ」と思います。何よりも人同士のつながり、助け合いの精神が本当にありがたい」とのことです。地域で子供を育てるという感覚は小さな村ならではの、様々な支援もある小川村に越してきてよかったです。

これからは、そんな小川村に少しでも恩返しができるよう、小川村での家族四人の生活を営んでいきたいと考

えているとのこと、「色々な将来のビジョンを考えながら今の生活を楽しんでいる」とおっしゃっていただきました。

お忙しい中、取材を受けてくださりありがとうございました。取材中の家の中の雰囲気がとてもよく、とても素敵な家族だと感じました。太田さん一家の小川村でのこれからの健やかな生活をお祈り申し上げます。(中村)



分館紹介

古馬川分館

家族的な雰囲気

令和最初の分館紹介をさせて頂きます。

最初に、分館の由来から説明させて頂きます。古馬川と言う名称は、古山東区、古山西区、馬曲区、川手



区、の頭文字を取って名付けられました。管内は面的にはかなり広範囲ですが、軒数・人口はかなり少ない過疎地域です。現在は古山西区が抜けて3区で構成し活動しています。昭和30年の南北小

川の合併当初は百数十軒有ったと思いますが、今現在は40軒位迄減少しています。この様な現状の中で、村外から空き家を購入して移住された方が数軒ございます。過疎地域にとっては本当に喜ばしい限りで、今後も、この様な方が増えていくことを期待しているところです。

次に、主な活動について紹介します。まず9月の敬老の日に合せて小川の湯いきいきプラザに於いて敬老



会を実施しました。管内の保健補導員さんとの共催による保健師さんの講演、村の担当者によるゴミの分別に関しての講演で、それぞれ日頃の生活に欠かせない事を学習させて頂きました。その後祝賀会を行ない楽しい1日となりました。敬老の皆様方には今後も健康管理に気を付けて長生き

をして頂き、次回も笑顔でお逢い出来ることを願っています。

11月には、恒例の慰安旅行を実施しました。上田城では案内人を依頼して説明解説を頂きながら散策し、改めて過去の歴史に触れることが出来て大変に有意義でした。その後、小諸市の菱野温泉にて懇親会を行い、

帰りはワイナリーに寄って試飲をし、それぞれお気に入りのワインをお土産に購入した方も大勢いて楽しい1日となりました。

2月には、瀬戸川分館との交流会を実施しました。まず、びつくらんどの体育館でふわっとテニス・ボッチャの競技で汗を流しました。その後瀬戸川のくつろぎの郷に移

動し、人権研修のビデオを鑑賞し、引き続きメインの親睦会に入りカラオケを使用しながら盛大に行う事が出来ました。初めて逢われた方、久しぶりに逢われた方等、日頃逢う事の出来ない皆様との交流が出来て本当に良かったと思います。最後迄残った方々はかなり遅くまで親睦を深めたとか・・・出来れば、今後とも継続することが出来ればと願っています。

今年の4月には、山菜採りを実施しました。数人のグループで各方面に分かれて収穫した山菜を早速天ぷら等にして美味しく頂きました。山菜の話、世間話等でアルコールも進み、楽しいひとときを過ごす事が出来ました。

以上、主だった活動を紹介しました。軒数、人員が少ない中での活動ですが、地域の社会教育の場として、他には見られない家族的な雰囲気、今後も取り組んでみたいと思っ



長川分館 古馬川宮尾均さん

ザークル紹介（参加してみました！）

絵手紙教室 『山桜の会』

今回は「絵手紙教室 山桜の会」の紹介です。絵手紙、と言うと山路智恵さんが浮かぶ方が多いと思います。栄村には山路さんの絵手紙美術館がありますし、友人から絵手紙で葉書が届いたことがある、なんて方もいらっしゃるかもしれませんね。

さて、この会は二十年近く前の老人大学の講座から始まり、主催を変えつつ現在に至っているそうです。何年か前までは、村営バスに乗って来る方もいたりして大勢いたようですが、今は北田豊茂さんを先生に五名の方が参加されています。この日参加されていた方達は私の知らない人ではなかったので緊張せず仲間に入れていただきました。

絵手紙の大きな流れは、

①墨で輪郭を描く↑伸び伸びと大胆に

②色を付ける↑はみだしても気にせず
③一筆（文）添える↑短く明確に
④落款を押す↑押すことで作品も完成
になります。絵に描くものは季節の花（この日は水仙・桜・チューリップ・菜の花等）が多くなるそうですが、各自持ち寄ったものを描いたり、借りて描いたりしているそうです。季節によっては物がメインになることもあるとか。



描き始めは花の向きや角度を確認しますが、決まると皆さん筆がためらうことなく進んでいきます。絵手紙に失敗という考えはないらしいのでちよつとしたミスも味になるそうです。色付けも順調に進んでいきますが、一筆になるとどうしても「さて何を書こうか」悩むとか。展示もするので字を間違えないように



辞書を引くそうです。どれも素敵な言葉が添えられていました。

途中、お茶タイムをはさんで最後に「ここのいいね」「これくらい大胆でもいいんだね」等と作品を見あつていました。その日描かれたものは公民館のホールに展示して終わりになります。

とにかく楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。会話の中で、ある会に参加された時、「定年が延びて趣味に使う時間がない」ということを聞かれて来たそうです。多くは取れなくても趣味に使う時間を持てる余裕が欲しいなと思いました。

絵手紙描いてみたいな、ちよつと気になるな、と思われた方は是非どうぞ。公民館で月二回開いています。

詳しくは公民館にお問い合わせ下さい。(松本)



小川村文化協会 ステージ発表会

横に構えて
叩くのが特徴的な
「三宅」



♥ 和太鼓 (小学校3年生)

午前の部

3月3日(日)、小川村公民館にて小川村文化協会主催・ステージ発表会が開催され、各サークルや小川小中学校の皆さんが、趣向を凝らした発表を行いました。



パチを使った
ダンスを取り入れ
るなどリズムカ
ルな演奏も

西澤聡一さんを
講師として迎え、
2年が経ち
ました



宝物って
なんだろう



♥ 音楽劇 (小学校3年生)



♥ 和太鼓 (太鼓衆 岳響 & 信州おがわ太鼓 美桜里)

聴くたびパワーアップ。完壁に揃えられていました。(美桜里)



ヨイシヨ
ヨイシヨ



音楽劇を通して
小川村への
感謝の気持ちを
伝えて
くれました。



子どもに負けじと！
さすがの迫力。圧巻で
す。(岳響)



♥ダンス（中学校文化部）
オリジナルの振付を取り入れるなど、
難易度の高いダンスを披露。



♥吹奏楽（中学校吹奏楽部）

12月のアンサンブルコンテストで演奏した「三日月のシャンソン」、ソロ演奏を含む「キセキ」など3曲を演奏。優しい音色を響かせました。

Let's
バナナダンス!



♥尺八演奏（歓竹会）



♥詩吟（銀間会）

午後の部



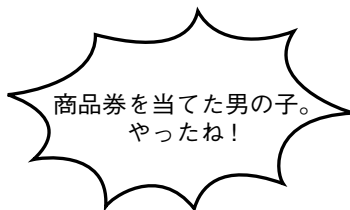
普段なかなか触れる機会の少ない伝統芸能。奥深さを感じました。



♥謡（篠ノ井閑祥会）

♥お楽しみ抽選会

手作りの工芸品や商品券が当たる豪華抽選会で締めくくり。どの景品も大当たり！皆さん嬉しそうに受け取っていました。



♥作品展示

手芸、水墨画、絵手紙、木彫りなど…思わずうっとりしてしまうような芸術品ばかりでした。



「趣味っていいなあ…」



作品展示を見ていた来場者の方の「趣味っていいなあ」という言葉が印象に残っています。皆さんは「趣味は何ですか？」と聞かれて、すぐに答えられますか？私はこの質問をされると、いつも返答に困ってしまいます。得意なことでもなければ、何か没頭できるようなこともない…なんだかつまらない人生を送っているような気がしてしまいます…。

ステージ発表会の冒頭、村長挨拶の中で「好きこそ物の上手なれ」という言葉が出てきました。出演者の皆さんからは、本当に楽しみながらやっている様子が見て取れました。好きだから上手くなるようにする。またこういった発表の場があることで、さらに技に磨きをかけようと努力する。当たり前のように忘れていた趣味を持つことの素晴らしさを改めて感じる事ができました。

興味を持たれた方は、これをきっかけにぜひ挑戦してみてくださいはいかがでしょう。趣味が仲間を呼び、また新しい発見につながっていくかもしれません。

出演者の皆さん、作品出展者の皆さん、素敵な時間をありがとうございました！！

(笠井)

2019年度 社会教育・公民館関係役員

【社会教育委員会】

議長 西沢榮之助
 副議長 古屋源吾
 委員 花田隆夫
 委員 新井孝之
 委員 小林亨
 【分館長・主事】
 ◎夏 和分館長 佐藤安男
 〃 主事 大日方重城
 久 木分館長 久保田武利
 〃 主事 久田肇
 高府町分館長 伊藤晃義
 ○ 〃 主事 峰村長男
 花 尾分館長 西沢力衛
 〃 主事 中村信一
 上 野分館長 小林澄男
 〃 主事 北村亮
 小根山分館長 中村裕則
 〃 主事 楠佳典
 稲丘東分館長 大久保和彦
 〃 主事 和田忠喜

稲丘西分館長 松下久一

〃 主事 峰村喜久利

成就分館長 川又康助

〃 主事 川又和秀

北尾分館長 宮下治久

〃 主事 宮下武志

法地分館長 西澤正忠

瀬戸川分館長 川浦英永

〃 主事 宮下藤治

古馬川分館長 宮尾均

〃 主事 伊藤正

(◎会長 ○副会長)

【スポーツ推進委員会】

委員長 小林雅樹

副委員長 松本武志

委員 須賀真孝

委員 伊藤聖寛

委員 二瓶理佳

委員 和田博之

委員 徳武美江

委員 祖母井陽子

【視聴覚委員会】

委員 矢口早苗
 委員 原山美奈

委員 川又啓一

副委員長 和田優孝

委員 和田久憲

委員 丸田勉

委員 大久保雅夫

委員 中村雄弥

委員 今村誠人

委員 横矢匠

委員 川又康助

【図書委員会】

委員長 松林美穂

副委員長 坂井明日香

委員 西沢郁美

委員 小林恵里子

【館報編集委員会】

委員長 松本博充

副委員長 松本治代

委員 伊藤恵

委員 笠井里奈